

1. 目的

<最終目的>

地域コミュニティの拠点である海洋センターが防災拠点も兼ね、「自助」「共助」が最大限に機能し、災害時の被害を最小限にとどめる環境をつくることを目的とする。

<中期目的>

子供達が興味をもって学べる教材やプログラムを作成し、海洋センターへ提供することで、子供達を中心とした地域の防災意識を向上させることを目的とする。

2. 実施内容

1. 防災教育教材を作成し、子供達を主な対象とした「海洋センター防災教室」を全国で実施した。

- ・実施箇所 193カ所
- ・参加者数 7917人が参加（内訳 大人 3867人 子供 4050人）

2. 地域住民に防災を身近なものに感じてもらう「防災運動会」を実施した。

- ・実施箇所数 4カ所（右表参照）
- ・参加者数 合計 335人

3. 実施内容詳細

(1) 防災教室

① 防災教材の作成

防災教室を実施するにあたり、東京大学大学院 情報学環 特任教授 片田敏孝 氏監修のもと、指導者用映像（14分間）・小学生を主な対象とした紙芝居を作成して配布した。



② 防災教室実施の様子

全国 193カ所で①の防災教材を活用し、防災教室が開催された。



地域の避難訓練と同時に開催。B&G 防災教室紙芝居の読み聞かせの他、非常炊出し訓練なども実施。（北海道苫前町）



海洋センターにて、1泊2日の防災キャンプを実施。段ボールでベッドやパーティションを作成した。（島根県浜田市三隅）

③参加者の感想

- ・災害の時は、寝るところを段ボールでしきったりすることを、初めて知りました。
- ・災害がおきたときにどう行動するかが分かった。
- ・津波の速さがとても速いことがわかって、もっと防災について知りたくなった。
- ・まちで過去に大きな地震が起きていたことがわかった。もっと防災に詳しくなって、友達にも教えてあげたい。

④参加者アンケート結果

防災教室開催の指導者及び参加者に対し、アンケート調査を行い、自然災害は発生した歳の行動の理解が高まるなど、防災意識が向上したといえる。

◆指導者用アンケート

- ・防災教育の重要性を感じた 95%
- ・防災意識の向上を感じた 94%
- ・事前の準備・対策の必要性を感じた 95%

◆参加者アンケート

- ・自然災害が発生した際の行動理解
わかった96% わからなかった1% どちらでもない3%

(2)防災運動会

①実施場所

実施前に全センターにアンケート調査を行い、B & G 体育館が避難所指定されており、防災運動会の実施が可能である以下の4ヵ所で防災運動会を実施した。

	日程	場所	人数
1	2018年11月4日	山梨県南アルプス市白根B & G 海洋センター	65人
2	2018年11月23日	宮城県蔵王町B & G 海洋センター	37人
3	2018年12月2日	愛媛県愛南町御荘B & G 海洋センター	33人
4	2019年3月10日	山口県周防大島町B & G 海洋センター	200人
		合計	335人

②実施内容

各地域でそれぞれの特色を生かした種目を考案し、実施した。

●山梨県南アルプス市白根海洋センター



アンドリー君を助ける！ロープワーク選手権

●宮城県蔵王町海洋センター



災害シミュレーションゲーム

●愛媛県愛南町御荘海洋センター



防災借り物競走

●山口県周防大島町海洋センター



畳 de 担架リレー

③参加者の感想

- ・防災運動会ではいつも個人プレーな息子が説明を聞き、皆さんと協力しながら取り組んでいる姿に成長を感じました。また、自分自身も防災の知識を得ることができ、とてもいい時間となりました。(保護者)
- ・防災イベントは真面目な印象だが、今回の運動会は楽しみながら防災を学べて面白かった。(保護者)
- ・とても楽しい運動会でした。また参加したい。(小学生)
- ・楽しく防災を学べてよかった。(小学生)
- ・みんなと協力して競い合うのが面白かった。(小学生)

以上